

チェルノブイリに思いをよせて

ポレーションエ

うれしいお知らせです！

<ナロジチ病院で給湯・給水設備の工事が始まりました!!>

前々号・前号で呼びかけた「水道キャンペーン」。皆さんの暖かい支援に、外務省支援委員会の応援が加わって、「目標 430万円達成！」がこんなにも早く実現しました。

1月の初めに、現地の「移住基金」が立会人となり、「ナロジチ病院」と、配管工事会社の「フェニックス」、そして私達「チェルノブイリ救援・中部」との間で、正式に契約書が取りかわされました。1月16日より工事の準備が始まり、完成の予定は2月下旬です。



私達は、「ただお金を送るだけではなく、一緒になって工事をやりたいね。」と話合っていました。その大役を<伊那>の原さんが引き受けてくれました。彼は、1月27日に日本を立ち、現地の人達と一緒に、仕事をします。そう、彼の職業は、知る人ぞ知る、伊那の「便利屋さん」、配管工事のプロフェッショナルなのです。 (次のページへ続く)

<写真中央が、伊那の原さん(ナロジチ病院にて)>

《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：神野英樹

【郵便振替】00880-7-108610

☎FAX:052-836-1073 (月・水・金・10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

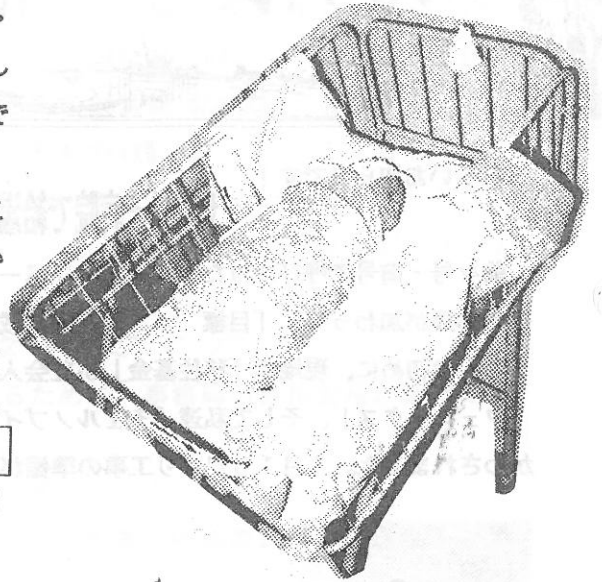
私達は、ナロジチ病院のコロミチュク院長さんの言葉を忘れることができません。

「今まで、数え切れない程たくさんの視察団が、このナロジチ病院を訪れました。そして、あなた方のように、『今、何が必要ですか?』『あなた方の夢は何ですか?』と同じ質問を繰り返し、細かくメモを取って帰っていきました。しかし、誰一人として、私達の夢をかなえるために、戻って来てはくれなかったのです。あなた方が初めてです。私達の夢をお話します。『生まれてくる赤ちゃんのために、この病院にお湯が出るようにしたいのです。』」

お別れの会で、ナロジチ病院のお医者さん・看護婦さんたちが、こんな約束してくれました。「お湯が出ることを祈りながら、みんなで日本語の勉強を始めます。」

私達は、「夢をかなえてあげたい。必ず、ここに帰ってこよう。」と心に決め、「また会いましょう! (ダノーヴァイフストレーチ!)」という言葉、教えあって帰ってきました。そして今、この夢が実現しようとしています。もしかしたら、**原さん、ようこそナロジチへ!**なんて書かれた日本語の横断幕が、原さんを歓迎してくれているのかも知れませんね。

神野 英樹



<この新しい命のために!>

🌲🌲🌲 ハート to ハート キャンペーンにご協力ありがとうございました 🌲🌲🌲



今回も、たくさんの個人、家族、高校、中学、小学校、幼稚園、さまざまなグループから創意あふれる素晴らしいカード、封筒などがよせられました。きちんと英文で書いた手紙を入れて、「ウクライナの生徒と文通したい。」と言ってこられたグループもありました。計874通のカードを12月16日に発送。12月30日にジトームルに到着。早速、移住基金の方々が、現地の州立小児病院、消防士の子供たちの幼稚園、ジトームル第二小学校に配っていただきました。「チェルノブイリの方々の励みになればと思い、カードを作りました。」「チェルノブイリの皆様のお幸せをお祈りします。」などの思いを込めたカード。皆様の思いは、確かに届きました。どうもありがとうございました。今回、発送作業をしてくださった、教授・名古屋の方々にもお礼申し上げます。

<事務局・M>

ご協力ありがとうございました

今年も、皆様の暖かいご支援のおかげで、2tの粉ミルクと66缶のフェニールアラニンレス・ミルクをウクライナに贈ることができました。

9月ウクライナを訪れた時、「フェニールケトン尿症の子どもたちに特殊ミルクを是非とも送ってほしい。」という要望がありました。特殊ミルクは一缶が一万円を越える高価なものなので、どれだけ寄付があつまるとか、ハラハラ・ドキドキでスタートしたキャンペーンでした。90年のキャンペーン開始以来、継続して浄財をお寄せくださる方々に加え、新たに学校の生徒さんや労働組合の方々からもまとまったご支援をいただき、救援活動に広がりがあったことを実感いたしました。

また、救援・一宮のバザーにも新しい仲間が増え、例年のリース、パッチワークの他に、クッキーなどもたくさん集まり、充実したバザーを準備できました。ところが、12月1日は大雪となり、後日岐阜の垂井町でバザーを行ったり、行商(?)したり、友人に作品を預けて売っていただいたり…。本当にお金を集めるのは大変。

古い友人、新しい知人にお便りをして呼びかけたところ、寄付金と共に励ましのメッセージを寄せていただき、涙がこぼれたことが幾度もありました。ミルク、ミルク…と、頭の中はミルクで一杯の三カ月間でした。フェニールアラニンレス・ミルクに関しては、決して十分な数ではありませんが、移住基金のキリチャンスキーさんから感謝の言葉がFAXされて来ました。

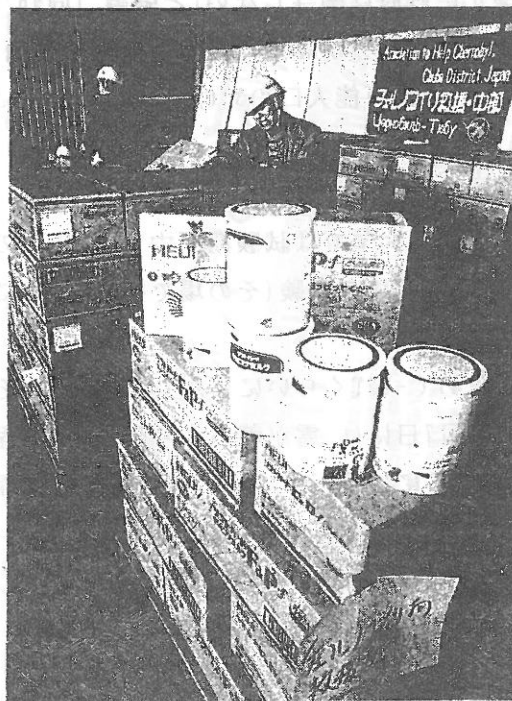
今回は、積み荷に少し余裕があり、お寄せいただいたタオルや使い捨てカイロなどもリング箱8個分、ミルクと一緒に贈りました。

ご支援くださった皆様にもう一度感謝いたします。

本当にありがとうございました。

ミルクキャンペーン担当

救援・一宮 中島しぐれ



チェルノブイリへ届け みんなの善意



1997年1月24日 中日新聞 朝刊

- ウクライナのエネルギー事情は -

・国家原子力委員会のデータによれば、ウクライナの5カ所の原発のすべては冬期の通常運転に必要な核燃料の供給を受けている。原発の生産電力は総電力の40%(96年11月には47%)。

・冬に備え、発電所用の石炭378万4000トと37万8000トの重油が備蓄されており、前年よりはずっと多いが、一日あたりの石炭供給量は予定の8万6900トより少なく約7万トである。



スタディ・ツアーでキエフを案内する竹内さん(96.4)

エネルギー省大臣ボチカレフは電力生産の減少に憂慮を表明。この状況から脱出するには、エネルギー市場を介し特定の電力販売をすることだという。大蔵大臣グレーエフは、バーター方式による電力の融通を止めることが必要と考えている。(以上「全ウクライナ新報」96.12.24)

- 社会保障/失業率は -

・ラザレンコ首相は市民の「不当な」特典の廃止を支持すると表明 現在各種の特典を規定した76の法律がある。なかでも公共交通機関無料の特典は、2700万人が利用している。首相は、「戦争参加者、障害者、『チェルノブイリ関係者』、『アフガン帰り』、退役軍人の特典廃止に政府は関与しない」と強調。(同96.12.26)

・労働大臣ペロブロツキーが閣議で提示した国の雇用プログラムによれば1997年の失業者は約百万人(労働可能人口の3.6%)、2000年の末には160万人と予測されている。(同96.12.31)

- お天気/生活は -

現在私の働いている大学では試験期間中で、私自身の教えている科目は今学期、試験が無いのですが、他の先生の試験(その場で採点する)に同席したり、試験問題の校正を手伝ったりしています。

12月27日にはじめて-22℃くらいに下がりましたが、その後比較的すごしやすく、こちらのクリスマス、1月7日には、雪が朝のうち降って-5℃程度のあたたかさ(と思わず書いてしまう)でした。7日にはシバノフ家に呼ばれてご夫婦と会食しましたが、娘さんのオーリャは(小・中学校は冬休み中)友達とディスコに行ったとかで不在でした。母親のニーナさんは、ディスコには麻薬中毒者なども出入りしているのじゃないかと心配したそうですが、ディスコの入口では警備員がボディ・チェックをするんだそうです。ディスコの入場料は5グリブナくらいするそうです。

最近キエフの水道水の質が問題になっており、グリーンピースは塩素使用を減らせと政府に要求したという記事も新聞に載っていました。(キエフより 竹内高明)

＜最近の国内原発事情＞ …浜岡5号機増設セレモニー…

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

「公開ヒアリングの参加者が、アバターの情報と、前の40人、1日、中身の追及、経済性、努力、通産省、これ、これ、問い、で、一色、計25、1、2、3、4号機、が、機、中、より、機、中、回、金、そ、う、願、て、し、ま、わ、ぬ、よ、う、祈、る、ば、か、り、で、あ、る、。（『豊橋70Km』より。文責：市川）」

5号機増設で協定締結
 浜岡町と中電 25億の協力金が柱
 住民20人、意見陳述
 浜岡原発5号機増設でヒアリング

協定書に調印する本誌記者と浜岡町長
 (右) 浜岡町長

こんにちは、親愛なる遠い日本の皆様！

<被災者からの手紙>

あなたがたのお手紙を受け取り、大変嬉しく思いました。私達がこの本当に辛い10年間どんなふう暮らしてきたかについて書きたいと思います。私は、58歳の平凡な女性で、農村地帯で生まれ生活しています。夫ウラジミールと娘二人と息子がいます。娘は成人してそれぞれの家族があり、5人の孫があります。もしも、私達を襲ったチェルノブイリの惨事あの不幸さえなかったら、私達は幸せだったのです。

私達の小さな町は、チェルノブイリからまっすぐ南へ150kmにあります。まるで今日のこのようにあの“暗黒の日々”のことを覚えています。私達は、誰からも何一つ知らされず生活をし、5月1日の祝日と5月5日の復活祭の準備をしていました。

4月28日は、強い北風が吹いていて、夕方私が仕事から歩いて家に帰ってくると、突然黒雲が襲いかかり、地面の上に雪のように灰が降り始めました。誰かが菜園でゴミを燃やして、風が灰を吹き上げたのではないかと考えました。

4月29日に私は、仕事でジトミル市へ行き、チェルノブイリで火事が起きたということを知りましたが、それが人々にこんな不幸をもたらすとは、誰にもわかりませんでした。

5月1日に、私は子どもや孫たちと町のパレードに行きました。たくさん子どもや大人たちが意識を失っているのを見たのですが、それは太陽のせいだと思っていました。5月2日、子どもや孫たちと一緒に畑でジャガイモを植えていました。強い北風が吹いていて、とても暑く、みんな服を脱いで日焼けをしました。惨事の放射線で火傷をするなんて、誰にもわからなかったのです。人々は眠気に襲われて手足が痛み、喉や頭が痛くなり、子どもたちはしばしば鼻血を出しました。1986年の秋、私達は菜園でジャガイモやニンジンにたくさんの奇形があることや、カボチャの茎が奇形の灌木に育っているのに気づきました。1987年には、一頭の牛が欠損のある子牛を産み、豚が産んだ12頭の子豚のうち、7頭に足や尻尾がなく、子猫は産まれて一日後には死んでしまいました。

人々には病気が目立つようになり、娘オリガは気管支喘息と診断され、息子の妻は脊椎がひどく痛む病気になりました。とてもたくさんの人々が癌になり、たくさん子どもたちが甲状腺の病気にかかっています。私の二人の兄弟の妻は、癌で死にました。彼女たちはまだ30~40歳なのです。私達は、自分のことはもう考えないようにしていますが、子どもや孫のことになるとそんなことも言っていられません。知人の何人もがこの10年間に死にました。皆まだ若かったというのに…。 ああ、この“善”というものを作り上げた人を呪いたい。私は前世紀に生きていた人をうらやましく思います。彼らは徒歩で歩き、辛い労働をし、コンピューターやテレビや飛行機もなく、宇宙へも行くこともなかったけれど、そのかわりにきれいな水を飲み、汚染されていない食べ物を食べ、きれいな空気を呼吸して、たくさん子どもを産んだのです。私達人間は、一体何が進歩したのでしょうか？私は世界中に向かって大声で叫びたいのです。「人間よ、考え直せ！立ち止まれ！」と。

ウクライナ ジトミル州 ガリーナ ペトロブナ

セルゲイ君、ユーリさんから手紙が届きました。

こんにちは皆さん！

あなたがたが私の治療のためのお金を集めるためにバザーを開いて頂いてどうも有り難うございました。(注1)

ウクライナという遠い国で災厄にあつた人を援助してくれる子どもたちが日本にいると私は知りました。今私は16歳で11年生です。それは学校の最後の学年です。去年手術と治療のため1学年の半分学校を休んでいました。今も一カ月に一度検査のために休みます。ですから、今は勉強することがあまり易しくはないですが、クラスの友達に追いつくように努力しています。そして学校を卒業してから大学に入ろうと思っています。今、治療のクールを続けながら気分がもっと良くなってきていますが、その前の状態の悪いときに私は病気について考えないようにしていました。その代わりに世界にたくさんある色々な面白い物について考えるようにしました。それは自然、友だち、本などのさまざまなものです。例えば冬に私は次の夏について考えました。夏が来たら必ず林に茸を探りに行こうと思いました。私たちを取り巻く世界がもっと良く分かるように勉強することが必要です。そうすれば生活がもっと面白くなるに違いありません。あなたがたは誰でも、生活の中で辛い時もあるでしょう。しかし、その代わりに必ず明るい日が来るに違いないと信じなければなりません。もう一度、どうも有り難うございました。私はいつまでもあなたがたのことを覚えています。

新年おめでとうございます！

新年の喜びとご成功をお祈りします。

1996年12月18日

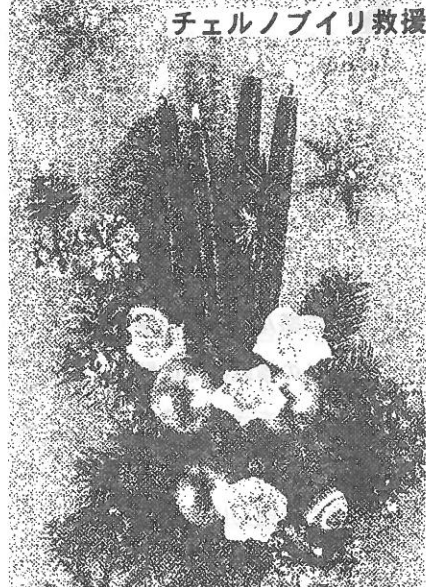
セルゲイ

こんにちは

セルゲイの治療のための募金活動をもう始められ、ご配慮と易しくない課題をひきうけていただいたことに対して心から感謝しています。息子を援助して頂きたいという私の願いに答えて下さったすべての親切な方々にも感謝しています。あなたがたの援助によって二カ月ぐらい前から薬をもっと買えるようになりました。(1.7倍ぐらい)この薬は、飲めば飲むほど良い結果があります。(中略)セルゲイの病気について始めて知った日(12月26日)が近づいています。彼はその時と比べれば気分はもっとよいです。しかし、完全な回復の道は困難で遠い道です。しかしあなたがたの支援のおかげでこれからの困難を乗り越えることがもっと易くなるでしょう。友達のみなさんに、よろしくと新年の挨拶をお伝え下さい。

P.S セルゲイの血液だけの検査の結果は比較的悪くないので、私たちは新しい希望が湧いて来ました。今の治療の効果があつたらうと思えます。ですから今のところは「よかつた」と言ってもいいでしょう。 ユーリ

引き続きご支援をよろしくお願い致します。
チェルノブイリ救援・岐阜



(注1) 岐阜市の長良養護学校の生徒さんたちがバザーを開いて11,171円送って下さいました。

チェルノブイリの汚染地域では今もセシウム137やストロンチウム90、プルトニウムなどの放射能が強く残っています。例えば半減期が30年のセシウムは10年たった今も事故当時の80%が土壌に残留しています。もちろん半減期が24000年のプルトニウム239はほとんどそのままです。こうした土壌中の放射能は植物の根から吸収され、植物を汚染します。

図1はセシウム137が200キュリー/ Km^2 の強度汚染地域の植物（3年生のやまならし科の植物の枝）をレントゲン・フィルムに当てて得られた写真です。植物体から出る放射線によってフィルムが感光し、その姿がくっきりと浮かび上がっています。このような写真をオートラジオグラムといいます。体中が放射能だらけ、ということ想像するだけでも恐ろしいことです。

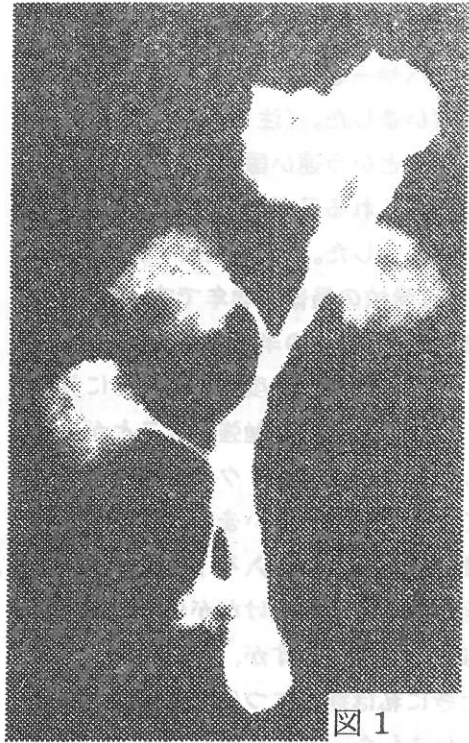


図1



図2

こうした、体内放射能がその生物に影響を与えないはずはありません。図2はセシウム137が150キュリー/ Km^2 の所に生え、突然変異を起こした針葉樹の枝の先端の写真です。放射能は細胞分裂の盛んな細胞の遺伝子に影響が大きく、遺伝子の複製の際に間違っただけを取り込んで、細胞を元とは違ったものにしてしまいます。これを一般に突然変異と呼んでいます。植物では盛んにのびている成長

点（つまり先端部分）に突然変異が起こりやすく、このように先端がいくつにも分かれた異常な成長になる事が多いのです。動物の場合は盛んに分裂を続けている卵細胞や胎児が大きな影響を受けることになります。

汚染地域の植物は放射能に汚れた世界の未来がどのようなかを私たちに強く警告しているのです。

（河田昌東）



一人でも多くの赤ちゃんが元気に育ってくれたらうれしいです。(M.A)
子どもに、チェルノブイリの話をしたらおこずかいから出してくれました。
紹介していただいた文通相手とは今も文通しています。(S.T)
ミルクキャンペーンやカードキャンペーンは、とても素晴らしい
企画だと思います。(N.S)
自分が関心を持っていることと、関心を持つ人を増やすことをやって
います。(H.N)
過去に起こった事故で、悲しい思いをしている人がたくさんいる事を
チェルノブイリの封筒が何度も思い出させてくれました。(K.K)
子どもたちにポレーシェを読み聞かせています。(Y.M)
ずーっと活動している方々のすばらしさに感心しながら、今後も
頑張っていたきたいと思います。(N.K)
12月のクリスマスカードの送付は毎年続けたいと思います。(Y.S)

事務局だより

ポレーシェ読者の皆様のご協力で、先に同封のアンケートの返事が事務局に届いている。そのアンケートのうち、ポレーシェの送付を「今後も希望する」が60通、又、「次からは希望しない」が169通であった。(1月20日現在) これだけ書くと、救援への関心が薄れ活動が厳しくなっていくのではないと思われるかもしれない。確かに、現実にはそういう側面もあるのだが、このアンケートに添えられたメッセージを読む時、必ずしも暗い気持ちになる訳ではない。むしろ、その逆と言ってもよい。

購読を継続されない方のメッセージには“心からエールを送る”“家庭の事情で送金出来ないが、申し訳ない”“自分は障害を持つが、身近な人の為に働きたい。皆様もがんばって”等、さりげなくそれぞれのご事情を率直に伝えて下さりながら、チェルノブイリ救援への想いを失ったのではないという心情がひしひしと伝わり、添えられた私共への謝辞に頭の下がる思いがした。事情の困難さから購読を辞退される方には心からありがとうございました、と申し上げたい。

チェルノブイリ救援中部・年始めの運営委員会で、今年は新たに、チェルノブイリ原発事故の最も過酷な現場で事故処理に従事した、除染作業員達の救援を出来ないものかと話し合った。

私達の救援にも、今なお汚染地へ赴き働く消防士さん達が当初から協力して下さっている。彼等の置かれている状況をじっくり聞く事から始めたい。

つたない事務局ですが、本年もよろしくお願い致します。

(山盛)

お知らせ

- ◇コバレフスカヤさんの「講演ビデオとテープ」貸出中…500円/回(送料別)
 - ◆救援・中部のTシャツ…1,500円/枚。ステッカー(好評!)…200円/枚
 - ◇絵はがき集(子ども達から届いた手紙や絵)…300円/1セット・5枚入
 - ◆「たった一回の原発事故で」(救援・中部編 地湧社)…500円/冊
 - ◇「とどけウクライナへ～私たちの救援日誌」(飯沼精 八朗)…1,600円/冊
 - ◆「ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの講演録(朝家の贈付)」…350円/冊
 - ◇「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」(フェルナンド・ルナ)…1,300円/冊
- ※おかげさまでテレホンカードは完売となりました。ありがとうございました。

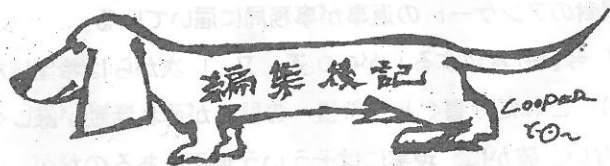
救援・中部までお申し込みください!

あなたも維持会員になってください。

チェルノブイリ救援・中部の活動を続けるために、事務局の維持費用が必要です。是非、事務局維持会員になってください。

★ 維持会員会費 10,000円/年(または、1,000円/月)

(※通信欄に、“維持会員費”として、救援・中部の口座にご送金を。)



- *こんなにも面白い「ポレーシェ」編集委員会。是非、皆さんとこの喜びを分かち合いたい。ただいま編集委員大募集中!(編集長 まや)
- *一昨年・昨年と、両親がケガや病気で交代で入院。何とか元気になりつつありますが、健康の大切さが身にしみた年でした。元気が一番、現金は二番。(アメーバ母さん)
- *大変だ!円が1割も下がってしまった!!「運営委員の皆さん、来月から赤字補填キャンペーンをスタートさせる事になりました。」(J)
- *寒い冬の訪れた日本。ポレーシェができあがりました。ウクライナはさぞ寒かろう。原さん、気をつけて水道工事ががんばって。(寛)
- *ただ今、「プータロー」してます。チェル救一筋でがんばります。(美)
- *被災者からの手紙を読むたびに、人々にとって、この10年は、重く長い日々だった事が伝わって来る。まだ届いていない、同じような叫び声に耳を澄ませたい。(K)
- *編集委員会をさぼってゴメン。次は、私が主役でやります。(幸)